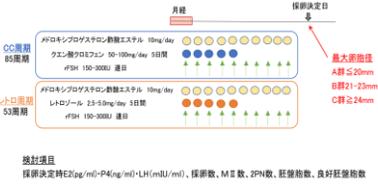


PPOS法における至適採卵日の検討 ～採卵決定時の卵胞径から～

生殖補助医療ARTにおける卵巣刺激法；COHモニタリングにおいて、至適採卵日の決定に卵胞径は重要な判断要素のひとつですが、より多くの成熟卵子を獲得するために、卵胞径16mm以上の卵胞が複数個発育してくるまで待機した場合、過熟や早期黄体化により培養結果に影響を及ぼす可能性があり、判断に迷うことも多いのが現状です。
 現在、従来のantagonist法と同等に排卵のリスクを抑えながら安定した採卵結果が得られるため、COHのひとつとして定着したPPOS法において、採卵決定日の最大卵胞径の違いによる培養結果を検討しましたので報告します。

方法



結果① CC周期85周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
周期数	39	37	9	
年齢	37.8±4.3	36.8±3.2	36.6±3.3	0.465
AMH	1.53±1.09	1.95±1.52	1.89±0.63	0.345
FSH基礎値	13.9±5.4	14.8±7.3	13.8±4.7	0.82

結果② CC周期85周期

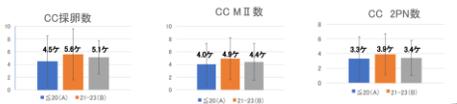
	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
OPU決定時E2	1114.7±565.9	1702.8±1106.5	1743.8±714.2	AB.0.012
OPU決定時P4	0.54±0.19	0.75±0.38	0.66±0.23	AB.0.0089
OPU決定時LH	4.1±2.2	4.0±2.0	2.9±1.7	0.308

結果③ CC周期85周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
採卵数	4.5±4.0	5.6±4.0	5.1±2.6	0.496
MⅡ数	4.0±3.3	4.9±3.3	4.4±2.9	0.524
2PN数	3.3±3.0	3.9±2.8	3.4±2.4	0.625

結果③ CC周期85周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
胚盤胞数	2.1±1.6	2.4±2.0	2.5±1.9	0.812
良好胚盤胞数	1.2±1.6	1.3±1.3	1.5±1.6	0.903



結果④ レトロ周期53周期

レトロ周期	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
周期数	18	18	17	
年齢	33.7±3.7	34.2±4.2	35.7±4.1	0.304
AMH	4.14±1.88	3.48±1.82	4.13±2.68	0.577
FSH基礎値	9.4±4.1	9.2±3.2	10.4±3.6	0.581

CC周期	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
周期数	39	37	9	
年齢	37.8±4.3	36.8±3.2	36.6±3.3	0.465
AMH	1.53±1.09	1.95±1.52	1.89±0.63	0.345
FSH基礎値	13.9±5.4	14.8±7.3	13.8±4.7	0.82

結果⑤ レトロ周期53周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
OPU決定時E2	779.2±561.9	944.6±669.1	893.0±377.0	0.658
OPU決定時P4	0.64±0.23	0.81±0.47	0.65±0.27	0.25
OPU決定時LH	2.9±1.4	3.1±2.5	2.3±1.5	0.394

結果⑥ レトロ周期53周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
採卵数	6.7±3.9	9.4±5.7	7.1±4.9	0.223
MⅡ数	5.4±3.3	7.4±3.8	6.3±4.6	0.337
2PN数	4.2±2.7	5.6±2.9	5.6±4.3	0.363

結果⑥ レトロ周期53周期

	≤20 (A)	21-23 (B)	≥24 (C)	P
胚盤胞数	3.3±2.4	4.6±2.5	4.6±3.9	0.346
良好胚盤胞数	2.0±2.2	2.8±2.1	2.8±2.2	0.429



(結論) PPOS法において、卵胞径が大きくなっても、採卵決定時のLH,P4は上昇することはなく、培養結果においては各群に有意差は認めなかったが、卵巣機能が良好なレトロゾール群において、採卵数や良好胚盤胞数はB群、C群で高い傾向にあった。

卵巣機能の良い症例におけるPPOS法においては、トップの卵胞が21mmを超えて採卵日を決定しても培養成績に負の影響はなく、その後の移植に繋がる胚の獲得に優位に働く可能性もあるため、採卵決定に迷った場合は他の卵胞が発育するまで待機することが可能と思われる

ARTにおける卵巣刺激法の選択や最適な採卵日の判断は、その後の胚移植、妊娠率に直結する重要な治療段階のひとつです。最適な治療を提案できるよう、今後も検討を進めていきたいと思ひます。